

ROSSO通信 7月号

夏季に流行する手足口病とは？症状・感染経路・治療・予防法は？

手足口病は、口腔粘膜及び手や足などに現れる水疱性の発疹を主症状とした急性のウイルス感染症であり、乳幼児を中心に主に夏季に流行し例年7月頃に流行のピークを迎えます。そのため今後しばらくは、増加傾向に注意が必要です。

～手足口病における水疱性発疹～



● 症状

3～5日間の潜伏期間の後に、口内、手掌、足底や足背などの身体の末端に2～3mmの水疱性発疹が現れます。熱は感染者の約3分の1に認められますが軽い症状で、**高熱が続くことは通常ありません。約3～7日で回復し、水疱の跡がかさぶたとなることもあります。**



● 感染経路

- ・ 飛沫感染
(感染者の咳・くしゃみを吸い込み感染)
- ・ 接触感染
(感染者が触れたものを触って感染)
- ・ 経口感染
(ウイルスに汚染した食べ物を食し感染)



● 治療

現在効果がある治療法はなく、抗菌薬の投与は意味がありません。発疹にかゆみを伴うことは珍しく、塗り薬は用いられません。口内に異常を起こすため、**乳幼児の場合は刺激にならないように柔らかめで薄味の食べ物がオススメ**です。また**こまめにスポーツドリンクなどを少しずつ何度も与えることがより重要**です。熱に対しては、通常は解熱剤なしで様子を見るようにしましょう。しかし**2日以上高熱が続く場合には病院を受診**しましょう。



● 予防法

- ・ **手洗い**をこまめに行うこと
- ・ 排泄物の速やかな処理



手洗い・うがいは病気を予防するために1番大事なこと。
必ず行うようにしましょう♪